

21 世紀減災社会シンポジウム

関東大震災から 100 年 ～教訓を継承し、迫り来る大災害にいかす

日時 令和 5 (2023) 年 1 月 2 0 日 (金) 13:30~17:00
(YouTube ライブ配信)



関東大震災で焼けた銀座周辺＝1923 年 9 月 【提供・朝日新聞社】

主催：朝日新聞社、(公財) ひょうご震災記念 21 世紀研究機構

後援：内閣府政策統括官(防災担当)、復興庁、総務省消防庁、
東京都、兵庫県、関西広域連合



現在の銀座

開催趣旨

阪神・淡路大震災以降、地震の活動期に入ったといわれる日本列島では、広域にわたる複合災害をもたらした東日本大震災をはじめ、新潟県中越地震、熊本地震など、地震災害が多発しています。

今こそ、「災後」の教訓や知見を「災前」の備えにつなげ、人と自然との共生、安全安心を優先する“災後の文明”の創造へと歩みを進めていかなければなりません。

こうした認識のもと、1923年9月に発生した関東大震災から100年となる節目を機に、迫り来る首都直下地震や南海トラフ地震などの巨大災害に備え、持続可能な減災社会を構築するための方策等について考えるため、「21世紀減災社会シンポジウム」を開催します。

プログラム

13:30～13:35 開会挨拶

なかむら しろう
中村 史郎 (朝日新聞社代表取締役社長)

13:35～14:35 基調講演

ひらた なおし
平田 直 (東京大学名誉教授・同大学地震研究所特任研究員)

演 題 「関東大震災 100年に、首都直下地震への対応を考える」

14:35～14:45 休憩

14:45～16:25 パネルディスカッション

「持続可能な『減災社会』を目指して」

パネリスト かぎや はじめ
鍵屋 一 (跡見学園女子大学教授／元東京都板橋区職員)

くわた やすこ
鍬田 泰子 (神戸大学大学院工学研究科准教授)

さとう ただゆき
佐藤 唯行 (一般社団法人フェーズフリー協会代表理事)

こじょう ひろたか
古城 博隆 (朝日新聞社東京社会部記者)

コーディネーター みくりや たかし
御厨 貴 (ひょうご震災記念 21世紀研究機構研究戦略センター長／
東京大学名誉教授)

16:30～17:00 総括

「関東大震災から学ぶこと～朝日新聞社所蔵の写真記録とともに」

い お き べ まこと
五百旗頭 真 (ひょうご震災記念 21世紀研究機構理事長／兵庫県立大学理事長)

【写真のふりかえり】 こばやし まいこ
小林 舞子 (朝日新聞社東京社会部次長)

基調講演

**平田 直**（東京大学名誉教授・東京大学地震研究所特任研究員）

東京大学理学部・理学系研究科修士課程修了、理学博士（東京大学大学院）。東京大学地震研究所長、国立研究開発法人防災科学技術研究所参与・首都圏レジリエンス研究センター長（～令和4年3月）等を経て現職。専門は地震学・地震防災。首都直下地震や南海トラフ地震などの巨大地震の解明とともに、被災した都市機能の回復についての研究を行う一方、（一社）防災教育普及協会会長を務める等、防災教育にも取り組む。政府の地震調査研究推進本部・地震調査委員会委員長、気象庁・南海トラフ地震に関する評価検討会会長、東京都防災会議地震部会長ほか政府・自治体の委員を務める。平成29年防災功労者内閣総理大臣表彰受賞。

パネルディスカッション

コーディネーター

**御厨 貴**（ひょうご震災記念21世紀研究機構研究戦略センター長／東京大学名誉教授）

東京大学法学部卒業。専門は近代日本政治史、オーラル・ヒストリー。東京都立大学教授、東京大学先端科学技術研究センター教授、放送大学教授などを歴任し、現在、東京大学先端科学技術研究センターフェロー、放送大学客員教授、サントリーホールディングス取締役。2017年よりひょうご震災記念21世紀研究機構現職。2018年紫綬褒章受賞。2011年4月より東日本大震災復興構想会議議長代理、続けて2012年2月より翌年3月まで復興庁復興推進委員会委員長代理を務める。主な著書に『「戦後」が終わり、「災後」が始まる。』（千倉書房2011年）、『別冊アステイオン「災後」の文明』（共編、阪急コミュニケーションズ2014年）などがある。

パネリスト（順不同）

**鍵屋 一**（跡見学園女子大学教授／元東京都板橋区職員）

秋田県男鹿市生まれ。1983年板橋区役所入区。防災課長、板橋福祉事務所長、福祉部長兼危機管理担当部長などを経て、2015年3月、議会事務局長を最後に退職。同月、京都大学博士（情報学）。同年4月より跡見学園女子大学観光コミュニティデザイン学科教授、法政大学大学院兼任講師。内閣府「被災者支援のあり方検討会」座長、「個別避難計画作成モデル事業アドバイザーボード」座長、（一社）福祉防災コミュニティ協会代表理事などを務める。著書に『図解よくわかる自治体の地域防災・危機管理のしくみ』、『ひな型でつくる福祉防災計画』（編著）など。

**鎌田 泰子**（神戸大学大学院工学研究科准教授）

京都府生まれ。1999年神戸大学工学部卒、2004年神戸大学大学院自然科学研究科修了。2007年より現職、博士（工学）。専門はライフライン地震工学。阪神・淡路大震災の復旧・復興を目の当たりにしながら、学生生活を過ごす。東日本大震災をはじめ、国内外の地震におけるライフラインの被害調査多数経験。大阪府・兵庫県の防災会議委員。市町の水道・下水道のビジョン策定に多数関わる。最近では埋設管の地震対策に向けた地震観測や埋設管載荷実験に取り組む。著書：震災救命工学（共立出版）。3児の母。

**佐藤 唯行**（一般社団法人フェーズフリー協会代表理事）

社会起業家、防災・危機管理・地域活性アドバイザー、フェーズフリーファウンダー。1996年『災害軽減（防災）工学』専攻による工学修士。国内外で多くの社会基盤整備および災害復旧・復興事業を手掛け、世界中で様々な災害が同じように繰り返されてしまう現状を目の当たりにしてきた。その経験・研究に基づき、防災を「持続可能なビジネス」として多角的に展開。その一つとして世界ではじめてフェーズフリーを提唱し、その推進において根源的な役割を担う。フェーズフリー協会ほか複数団体の代表。

**古城 博隆**（朝日新聞社東京社会部記者）

2004年朝日新聞社入社。札幌、鹿児島、福岡、東京、仙台で勤務し、2022年5月より現職。国土交通省を担当。災害への備えを特集する紙面企画「災害大国」にも携わる。2011年の東日本大震災、2012年の九州北部豪雨、2013年の伊豆大島の土石流災害、2014年の御嶽山噴火などを取材。2019年から3年間、東日本放送（仙台）に出向し、東日本台風などを取材したほか、震災復興に関する番組「高台はできたけど～復興事業の誤算～」 「ひとが減るまちで～震災11年の憂い～」を制作した。

総括



五百旗頭 真 (ひょうご震災記念 21 世紀研究機構理事長／兵庫県立大学理事長)

京都大学法学部卒業、同大学院法学研究科修士課程修了。広島大学を経て神戸大学法学部教授。その間、ハーバード大学、ロンドン大学客員研究員、日本政治学会理事長などを歴任。2006 年防衛大学校長に就任。2011 年東日本大震災復興構想会議議長、2012 年復興庁復興推進委員会委員長などを歴任。2012 年からひょうご震災記念 21 世紀研究機構理事長。2018 年から兵庫県立大学理事長、2020 年から宮内庁参与。著書に『日本政治外交史』、『米国の日本占領政策』（サントリー学芸賞）、『日米戦争と戦後日本』（吉田茂賞）、『占領期一首相たちの新日本』（吉野作造賞）など多数。



小林 舞子 (朝日新聞社東京社会部次長)

北海道生まれ。2001 年朝日新聞社入社後、北海道報道部、津総局（三重県）、東京科学医療部、西部報道センター（福岡県）などを経て、2020 年 4 月より東京科学医療部次長、2022 年 4 月より現職。現在は「災害大国」や東日本大震災の担当デスク。福岡勤務だった 2016 年 4 月、阿蘇山の火山企画を取材中に熊本地震に遭遇。「地盤災害」の実態やマンション復旧、ブロック塀倒壊の問題を取材した。



関東大震災で焼けた浅草周辺と崩壊した

当時の名所、凌雲閣＝1923 年 9 月

【提供・朝日新聞社】

関東大震災時、火災が広がる中、貴重な
避難場所となった清澄庭園の現在の姿
(東京都江東区)



公益財団法人 ひょうご震災記念 21 世紀研究機構 研究戦略センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1 丁目 5 番 2 号

TEL : 078-262-5713

FAX : 078-262-5122

E-mail : gakujuitsu@dri.ne.jp

URL : <https://www.hemri21.jp/>